

令和5年度羽曳野市事務事業評価シート(令和4年度実施事業)

				事務事業コード		151-02-01	
事務事業名		水道管路管理事務事業		事務の種類		自治事務(任意のもの)	
				連絡先		内線5042	
担当部署名		水道局工務課		予算科目	会計	水道会計	
総合基本計画	施策目標	1	快適でうるおいのある 住みよいまち		款	事業費用	
	施策	5	上下水道		項	営業費用	
	施策の方向	1	安全で安定した水の供給		目	配水及び給水費	
事業の概要	対象 (誰を・何を)	羽曳野市水道事業の設置等に関する条例の第2条の第2項の給水区域内水道利用者					
	目的 (どうしたいか)	いつでも安全で安心して利用することのできる水道水を各家庭に安定して給水するために管路の管理を適正に行う					
	手段 (事業内容)	送水管・配水管等の市内に約464kmある水道管の材料・口径・布設年度等を管理、管路の破損による漏水事故等の迅速な処置による管理等を日常的に行う					

予算・決算額		(単位:千円)			※主な内訳(令和4年度決算)※
		令和3年度	令和4年度	令和5年度	
当初予算額	事業費	190,468	182,020	178,961	【事業費】 委託料 63,480千円 ※水道修繕・漏水調査委託料 路面復旧費 10,484千円
決算額	事業費	79,741	114,338	—	
	特定財源等	0	0	—	

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	漏水事故修繕件数		単位	件
指標の説明	水道メータまでの配水管・給水管で発生した漏水事故の修繕件数			
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
目標(見込)	190	170	150	
実績	133	132	－	

成果指標	(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	管路事故件数(Kmあたり)	単位	件
指標の説明	漏水事故修繕件数÷管路延長(Km)		
	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)	0	0	0
実績	0.3	0.0	－

【事業費】 委託料 63,480千円 ※水道修繕・漏水調査委託料 路面復旧費 10,484千円
【特定財源】

※事業の参考数値等※
【管路延長】 R3 464km R4 463 km
【耐震化済み延長】 R3 141km R4 147 km
【耐震化率】 R3 30.5% R4 31.7 %
【漏水件数】 R3 733件(道路部 175件) R4 763件(道路部 132件)

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務の事業である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きい。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	A
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。	

総合評価	現状維持	今後の改善内容
(担当部局による総合評価の理由や課題) 市民生活において「命の水」でありライフラインを担う水道事業の水道管の管理は、水道水を安定して提供するために必要不可欠な事業である。近年、水道管の老朽化等により漏水事故が増加しており、道路陥没等の二次災害を防ぎ、利用者への影響を抑制するため、迅速かつ効果的な対応・処理を行い、漏水事故を減らし効果的な水道事業の運営に努める。		(令和5年度以後の事業実施への改善内容) 布設年度・管種等を把握し、管路の事業計画等に反映し、より効果的な事業展開を図るための水道施設(管路)台帳の整備に今後も継続的に取り組む。

令和5年度羽曳野市事務事業評価シート(令和4年度実施事業)

				事務事業コード		151-02-02	
事務事業名		水道施設管理事務事業		事務の種類		自治事務(任意のもの)	
				連絡先		内線5042	
担当部署名		水道局工務課		予算科目	会計	水道会計	
総合基本計画	施策目標	1	快適でうるおいのある 住みよいまち		款	事業費用	
	施策	5	上下水道		項	営業費用	
	施策の方向	1	安全で安定した水の供給		目	原水及び浄水費	
事業の概要	対象 (誰を・何を)	羽曳野市水道事業の設置等に関する条例の第2条の第2項の給水区域内水道利用者					
	目的 (どうしたいか)	安全で安心して利用することのできる水道水を安定して提供するための「つくる」「送る」「ためる」施設の管理を適正に行う					
	手段 (事業内容)	石川浄水場・壺井浄水場・羽曳山配水場・伊賀受水場・西浦受水場・低区第1配水池・低区第2配水池・高区配水池・壺井配水池等の「つくる」「送る」「ためる」水道施設を日常的に適正な管理を行う					

予算・決算額		(単位:千円)			≪主な内訳(令和4年度決算)≫	
		令和3年度	令和4年度	令和5年度	【事業費】 受水費 413,467千円 委託料 143,450千円 ※設備機器類保守点検委託料 動力費 103,386千円 【特定財源】	
当初予算額	事業費	740,562	716,770	742,224		
決算額	事業費	658,692	673,405	—		
	特定財源等	0	0	—		

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	水運用・施設管理等業務委託等発注数	単位	件	
指標の説明	安全で安定した水道水を供給するために必要な水運用や施設・設備の保守点検等の発注した委託業務数			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)		12	8	6
実績		12	8	—

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	水道水の提供に支障が発生した故障・事故件数	単位	件	
指標の説明	水道施設の停止を伴う事故・故障件数			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)		0	0	0
実績		0	1	—

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的事業である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きい。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	A
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。	

総合評価	現状維持	今後の改善内容
(担当部局による総合評価の理由や課題) 市民生活において、「命の水」であるライフラインを担う水道事業の水道施設の管理は、24時間365日安全で安心な水道水を安定して提供するために必要不可欠な事業である。施設の運転管理については、24時間365日委託業務等により人員を配置し、水源の確認・水質監視・配水池の水位・送水量等の調整を行い、適正な施設の運転・保全に努めている。10月より施設管理業務の効率化を図るため、近隣水道事業体と共同し業務委託を実施している。		(令和5年度以後の事業実施への改善内容) 継続して施設・設備の保守点検を定期的実施し、適正に管理・運転することができるよう水道施設台帳の整備に努め、安定した水道水の提供を実現する。

令和5年度羽曳野市事務事業評価シート(令和4年度実施事業)

				事務事業コード		153-01-01	
事務事業名		管路・施設更新事業		事務の種類		自治事務(任意のもの)	
				連絡先		内線5032	
担当部署名		水道局工務課		予算科目	会計	水道会計	
総合基本計画	施策目標	1	快適でうるおいのある 住みよいまち		款	資本的支出	
	施策	5	上下水道		項	建設改良費	
	施策の方向	3	水道施設等の整備と更新		目	施設改良費	
事業の概要	対象 (誰を・何を)	羽曳野市水道事業の設置等に関する条例の第2条の第2項の給水区域内水道利用者					
	目的 (どうしたいか)	管路や施設の整備・更新を行い、耐震化を図ることにより、水道の安全・安心・安定の確立を目指す					
	手段 (事業内容)	老朽化管路及び施設の耐震化を計画的・効率的・効果的に実施すると伴に下水や大阪ガス等の地下埋設物関係者と協働し、管路の整備・更新を行う					

予算・決算額		(単位:千円)			≪主な内訳(令和4年度決算)≫	
		令和3年度	令和4年度	令和5年度	【事業費】 ・工事請負費 396,436千円 (管路:移設・改良工事・設備工事) ・委託料 19,808千円 (設計・家屋調査等) ・負担金 12,767千円 (下水道・大阪ガス等との共同事業による舗装工事費) 【特定財源】 工事負担金・他会計負担金	
当初予算額	事業費	795,504	787,933	1,017,569		
決算額	事業費	403,207	429,119	—		
	特定財源等	51,154	67,247	—		

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	水道管整備工事に伴う耐震化延長	単位	m	
指標の説明	水道局発注工事において耐震化された管路の延長			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)		4,820	3,362	4,452
実績		3,425	3,086	—

成果指標	(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	管路耐震化率	単位	%
指標の説明	耐震化済管路延長÷管路総延長×100		
	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)	31	32	32
実績	31	32	－

≪事業の参考数値等≫	
【管路工事発注件数】 R3 改良 10件 移設 3件 R4 改良 13件 移設 0件	
【管路工事延長】 R3 3,425m R4 3,086m	
【施設工事発注件数】 R3 1件 R4 4件	

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的事業である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	A
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。	

総合評価	現状維持	今後の改善内容
(担当部局による総合評価の理由や課題) 市民生活において、「命に必須の水」であるライフラインを担う水道事業の水道の管路・施設の更新事業は、全て耐震化事業として取り組んでおり安全で安心な水道水を安定して提供するために必要不可欠な事業である。今後も水道整備基本計画、水道ビジョンに基づき、経年管の軽減・耐震化率の向上を目指し管路の更新(耐震化)工事を積極的に取り組むとともに、第6次水道施設整備事業と連携し災害に強い水道管路・施設の構築を目指します。		(令和5年度以後の事業実施への改善内容) 公共工事に対する市民の関心が高くなっていることに鑑み、従来以上に他の建設部局との協力・提携を図り、効率的な事業推進を目指します。

令和5年度羽曳野市事務事業評価シート(令和4年度実施事業)

				事務事業コード		153-01-02	
事務事業名		災害時体制整備事業		事務の種類		自治事務(任意のもの)	
				連絡先		内線5042	
担当部署名		水道局工務課		予算科目	会計	水道会計	
総合基本計画	施策目標	1	快適でうるおいのある 住みよいまち		款	事業費用	
	施策	5	上下水道		項	営業費用	
	施策の方向	3	水道施設等の整備と更新		目	配水及び給水費	
事業の概要	対象 (誰を・何を)	羽曳野市水道事業の設置等に関する条例の第2条の第2項の給水区域内水道利用者					
	目的 (どうしたいか)	南海・東南海地震など大規模地震や水害等の大規模災害に備え、資材物資の備蓄・配備等および訓練等による災害時体制整備を行う					
	手段 (事業内容)	管路・施設の修繕や応急給水に必要な資材物資の備蓄及び配備を行うと伴に、有事の際の活動訓練を実施する					

予算・決算額		(単位:千円)			≪主な内訳(令和4年度決算)≫	
		令和3年度	令和4年度	令和5年度	【事業費】 災害用資機材購入・配備 ※給水袋 476千円 【特定財源】	
当初予算額	事業費	4,092	797	702		
決算額	事業費	440	476	－		
	特定財源等	0	0	－		

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	災害訓練回数	単位	回	
指標の説明	災害時に備えた各種訓練(災害応援含む)の回数			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)		2	3	3
実績		2	3	－

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	給水袋の配布可能率	単位	%	
指標の説明	給水袋(3ℓ換算値)÷羽曳野市行政区域内人口×100			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)		91	92	90
実績		91	91	－

【事業費】 災害用資機材購入・配備 ※給水袋 476千円
【特定財源】

≪事業の参考数値等≫
【応急給水施設】 石川浄水場・伊賀受水場・低区第1配水池・低区第2配水池・応急給水拠点等
【応急給水資機材】 給水車1台・給水タンク5基・給水袋10ℓ 6,400枚・6ℓ11,800枚・5ℓ28,100枚・緊急用給水栓28基

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的事業である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きい。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果がが上がっている。	A
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。	

総合評価	現状維持	今後の改善内容
(担当部局による総合評価の理由や課題) 市民生活・ライフラインを担う水道事業として、災害発生に備え大阪広域水道企業団や近隣市等の関係事業体と災害応援協定を締結し、毎年、応急給水訓練等を実施しているとともに、平成30年度は大阪北部地震、令和3年度は、和歌山県和歌山市水道局に応急給水活動を行った。また、水道資機材・漏水修繕材料・漏水発見・運転管理システム等の関係企業体とも災害応援協定を締結し、早期に給水再開を目指すべく準備に努めている。また、災害時に必要となる資機材や給水袋等を計画的・定期的に購入するとともにその購入物資を適切に配置するべく事業を積極的に実施している。	(令和5年度以後の事業実施への改善内容) 以後も必要不可欠な事業として引き続き現状維持し、事業を実施する。	

令和5年度羽曳野市事務事業評価シート(令和4年度実施事業)

				事務事業コード		153-01-03	
事務事業名		第6次水道施設整備事業		事務の種類		自治事務(任意のもの)	
				連絡先		内線5032	
担当部署名		水道局工務課		予算科目	会計	水道会計	
総合基本計画	施策目標	1	快適でうるおいのある 住みよいまち		款	資本的支出	
	施策	5	上下水道		項	建設改良費	
	施策の方向	3	水道施設等の整備と更新		目	第6次水道施設整備事業費	
事業の概要	対象 (誰を・何を)	羽曳野市水道事業の設置等に関する条例の第2条の第2項の給水区域内水道利用者					
	目的 (どうしたいか)	管路や施設の整備・更新を行い、耐震化を図ることにより、水道の安全・安心・安定の確立を目指す 事業実施年度:平成30年度～令和6年度 7箇年計画					
	手段 (事業内容)	受水場や配水池の施設や施設間の送水管及び重要給水施設の優先度1位の施設への配水管の耐震化を計画的・効率的・効果的に実施する					

予算・決算額		(単位:千円)			≪主な内訳(令和4年度決算)≫	
		令和3年度	令和4年度	令和5年度	【事業費】 ・工事請負費 703,033千円 管路(配水管・送水管) ・委託料 38,294千円 設計費 【特定財源】 ・企業債 480,800千円	
当初予算額	事業費	1,181,917	1,097,702	947,159		
決算額	事業費	698,110	741,326	—		
	特定財源等	458,300	480,800	—		

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	工事・委託業務発注数	単位	件数	
指標の説明	水道施設・管路の工事及び委託業務の発注した件数			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)		31	24	20
実績		22	24	—

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	継続費の総額に対する進捗率	単位	%	
指標の説明	支払義務発生累計額／全体事業費×100			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)		49.4	70.9	92.2
実績		48.1	70.4	—

【事業費】 ・工事請負費 703,033千円 管路(配水管・送水管) ・委託料 38,294千円 設計費 【特定財源】 ・企業債 480,800千円
--

≪事業の参考数値等≫ 【発注件数】 R3 配水管工事(耐震化) 6件 R4 配水管工事(耐震化) 3件 【委託業務発注件数】 R3 設計委託他 16件 R4 設計委託他 18件
--

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的事業である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きい。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	A
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。	

総合評価	現状維持	今後の改善内容
(担当部局による総合評価の理由や課題) 本事業は、水道法第2条第2項に基づき、平成28年度に策定した「羽曳野市水道事業整備基本計画」に準じ、水道管路・施設の更新・耐震化を集中的に、また計画的に事業を実施するもので、市民生活・ライフラインを担う水道事業として安全で安心な水道水を安定して提供するため管路・施設の更新・耐震化は、必要不可欠な事業である。平成30年度より令和6年度の7カ年事業として事業計画を推進し、積極的に効果的・効率的な事業展開を行い、災害に強い水道管路・施設の構築を目指します。		(令和5年度以後の事業実施への改善内容) 当事業も下期に差し掛かり、より効率的に事業を進めるように工程管理の徹底が求められている。